

(氏名) 石渡 華奈	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 授業外での英語学習機会の提供</p> <p>1. Kana's Café</p> <p>「授業以外でも英語を学びたい・使いたい」という学生の希望により始めた週一回の Kana's Cafe は、今年で 6 年目となった。登録メンバーは 20 名ほどで、少ないときで～4 名、多いときは 10 名以上の出席がある。教員も学生も互いに義務ではないため、より自然でより自発的な学習の場として機能している。</p> <p>英会話スクールや近年流行りのオンライン英会話と決定的に異なる点は、英会話のみを目的としているわけではなく、英語学習相談を受けて適切な教材を紹介したり、個人のニーズに合わせた学習プログラムを作成したり、英語に関する質問に答えたりという機会を確保している点である。また英語の化石化が起らないように、教材を決めて正確な英語で発話をするというトレーニングも行っている。</p> <p>2016 年度は、メンバーのうち 2 名が英検準 1 級に合格し、3 名が高経 TOEIC 最優秀賞 (TOEIC 800 点以上) を、5 名が高経 TOEIC 優秀賞 (TOEIC 700 点以上) を受賞した。また、卒業した 2 名はいずれも入社後、英語を使う業務に携わることが決まっている。</p> <p>2. 英語ルール</p> <p>学内でも学外でも学生に会ったときは英語で話しかけ、授業中や研究室内で教員が英語を使っているときに学生は日本語を使ってはいけないというルールを決めている。メール連絡も LINE のチャットも原則としてすべて英語で行っている。年度の始まり、各学期の始まりにはほとんど英語で受け答えができずに日本語に頼ろうとする学生でも、年度の終わりには積極的に英語でコミュニケーションを取ろうという姿勢に変わっていることに、その効果が反映されている。</p> <p>3. 発音講座</p> <p>英語研究部 (ESS) の部員たちから希望があり、後期から週に一回、英語の音を攻略するための「発音講座」を開いた。この講座では、通常の授業ではなかなか扱えないさまざまな英語の音声現象を体系的に扱い、英語の音を習得するためのトレーニングを行った。5 限終了後から 2～2.5 時間のレッスンであったが、毎回 10 名を越す (多いときは 20 名以上の) 参加者があった。ESS 部員ではない学生の参加もあり、「発音にしっかり取り組んだらリスニング力が上がった」「TOEIC のスコアが急上昇した」など、たいへん好評であった。</p> <p>(2) 英語スピーチのコーチング</p> <p>ESS スピーチセクションの希望メンバーに対して本格的なコーチングを行った。その結果、1 名が計 10 の全国大会に出場 (うち 3 大会で優勝、3 大会で 2 位入賞、3 大会で 3 位入賞) という本学 ESS 史上初の大快挙を成し遂げ、学長表彰ならびに同窓会三扇賞の受賞となった。また別の 1 名も 5 つの全国大会に出場 (うち 1 大会で 5 位入賞)、1 名が 3 つの全国大会に出場、ほかに 3 名がそれぞれ全国大会に出場し、ESS が団体として同窓会奨励賞を受賞した。</p> <p>全国に何千人という ESS 部員のなかで、予選を通過して全国大会の本選に出場できる者はごくわずか (各大会 8～10 名) であり、一大学の ESS から計 6 名が計 21 の全国大会に出場するというのは、全国的にも珍しい、非常に輝かしい成績である。</p>	

### (3) 英語カリキュラム改革

2017 年度開始予定の新カリキュラムについて、他の英語部会メンバーとともに改革案を煮詰め、決定することができた。発信能力重視の必修科目、統一テストによる 1 年次から 2 年次へのプレイスメント、両学部での少人数クラスの実現、大幅に増えた多様な選択科目、副専攻制度などが盛り込まれたカリキュラム改革が実現する。

新たな e-learning 教材の選定および導入、必修科目「Practical English 3/4」の改革、新教科書のパイロット、全学的なニーズ分析調査、各教科書会社やテスト会社とのリエゾン役など、これまで数年にわたり英語カリキュラム改革に向けて英語部会の中で果たしてきた役割のひとつひとつが実を結び、全体への貢献につながったと考えている。

## 2 その他の事項

## 3 次年度以降の計画・抱負

毎年必ず数名の学生から「なぜこの大学には石渡のゼミ（あるいは英語のゼミ）がないのか」と質問を受ける。本学では語学教員のゼミ担当が認められていないが、ゼミを望む学生たちのためにも、国際学科新設を機に英語教員にもゼミを担当させていただけるよう執行部に働きかけていきたい。ゼミが開講できないとしても、その代替りの存在として Kana's Café の機能を充実させていきたい。また、ESS スピーチセクションのメンバーたちが全国区で競い続けられるよう、自己のコーチングスキルをさらに向上させて指導に当たるとともに、英語弁論大会においては全国の大学から応募のある予選を突破して本選に出場することがいかに難しいかをより多くの教職員に理解していただくよう工夫し、学生の努力と成果がより評価されるよう努めていきたい。

英語部会では、2017 年度始動の英語新カリキュラムに対して予定している PDCA サイクルにのっとりカリキュラム評価を行い、問題点や課題等を抽出し、継続的な改善、改良を図っていく。